（3）多摩村から多摩町へ

～明治時代から多摩ニュータウン開発前の多摩～

連光寺村御猟場と多摩聖蹟記念館

1881（明治14）年から1884（明治17）年にかけて明治天皇は、当時神奈川県に属していた連光寺村にウサギ狩りやアユ漁を観覧するため4回訪れました。この経緯について、ウサギ狩りの案内人であった富澤政恕（まさひろ）らが詳しく述べています。これを機に、連光寺村一帯が「連光寺村御猟場」に指定され1917（大正6）年までの間、多くの皇族が狩りに訪れました。1919（大正8）年この地に農商務省「鳥類調査実験場」が設けられ、1923（大正12）年に「標本館」が建てられました。

明治天皇連光寺村御猟場
1881（明治14）年2月20日の連光寺村向ノ岡でのウサギ狩りのルートを昭和初期に作成された地図に記したもので、1930（昭和5）年に建てられた記念館は赤二重丸の位置である。

農商務省鳥獣実験場 標本館　1986（昭和61）年8月
元の御猟場の地に鳥類などの標本を保存する目的で1923（大正12）年4月に建てられた、多摩村初の本格的洋風木造建築であった。1996（平成8）年老朽化により取り壊された。

1930（昭和5）年、明治天皇の宮内大臣であった田中光顕（みつあき）らにより、明治天皇や皇族の連光寺行幸・行啓を記念して「多摩聖蹟記念館」が建てられました。この建物の設計者の関根要太郎は当時の日本の軍国主義的傾向の強い中、ヨーロッパの古代から近代までの多様な建築様式を取り入れた設計をしました。この建物は内部に設置された渡辺長男作「明治天皇騎馬像」とともに、時代に迎合しない近代芸術の歴史遺産です。（糸井孝雄）

多摩市デジタルアーカイブ

旧多摩聖蹟記念館落成式当時の記念写真　1930（昭和5）年
1930（昭和5）年11月9日開館式をおこなった。最前列中央で杖を持つ和服の男性（右から7番目）が田中光顕である。

多摩市デジタルアーカイブ

明治天皇騎馬像除幕式の記念写真
1930（昭和5）年
若き日の明治天皇の姿を彫塑家渡辺長男が製作した像を建物中央に設置した。この写真によると、当初は神格化された空間に設えている事が分かる。

交通と観光

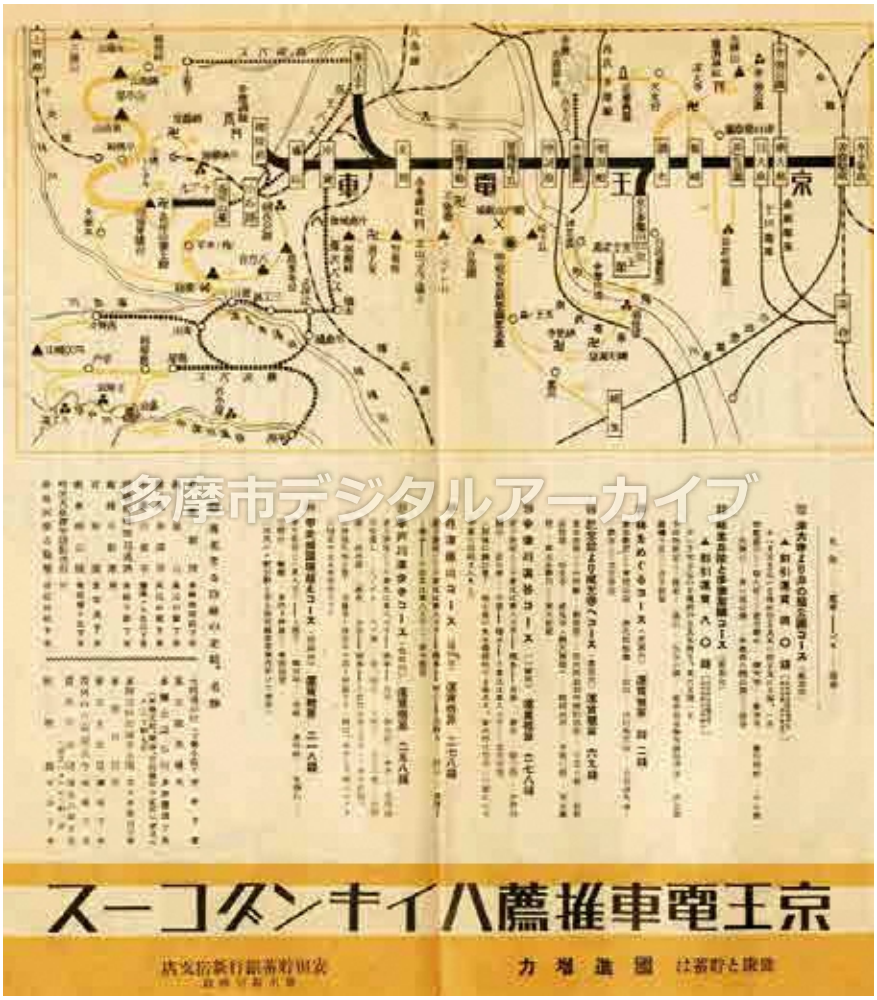
1925（大正14）年、玉南（ぎょくなん）電気鉄道の府中～東八王子（現京王八王子）間が開通し、関戸駅（現聖蹟桜ヶ丘駅）が開業しました。多摩村をはじめ多摩川南岸の人たちは早期建設を求めて、資本金150万円のうち6割を引き受けました。レール幅を1,067mmにして地方鉄道法による補助金を得ようとしますが、中央線と競合するため不許可となりました。翌1926（大正15）年に京王電気軌道と合併し、京王と同じ1,372mmに改めて、1928（昭和3）年には新宿～東八王子間で全通運転が始まります。一方、多摩村～津久井郡川尻村（現相模原市緑区）を結ぶ南津（なんしん）電気鉄道は実現しませんでした。

京王電気軌道・玉南電気鉄道沿線案内図（部分）　1924（大正13）年
開通前に作成された沿線案内。京王と玉南、2つの府中駅があった。

玉南電気鉄道多摩川鉄橋　1925（大正14）年
開通記念絵葉書。玉南電気鉄道当時の写真はきわめて少ない。

鉄道省文書「南津電気鉄道」　1934（昭和9）年
敷設願から免許返納までの経緯が分かる史料が綴じられている。

この間、玉南電鉄と玉南保勝会は向ノ岡遊園や沿線史跡の観光開発を計画、全通開始の1928（昭和3）年には聖蹟奉頌（ほうしょう）連光会が設立、1930（昭和5）年に多摩聖蹟記念館が開館します。聖蹟記念館に多くの人々が訪れるようになると、周辺の整備が進んで東京郊外の日帰りハイキング地になっていきます。1937（昭和12）年には関戸駅が聖蹟桜ヶ丘駅と改称、関戸橋が架けられました。（保坂一房）



京王電車推薦ハイキングコース
1940年代（昭和15～24年）
⑭に記念館から威光寺へコース（家族向）が記されている。

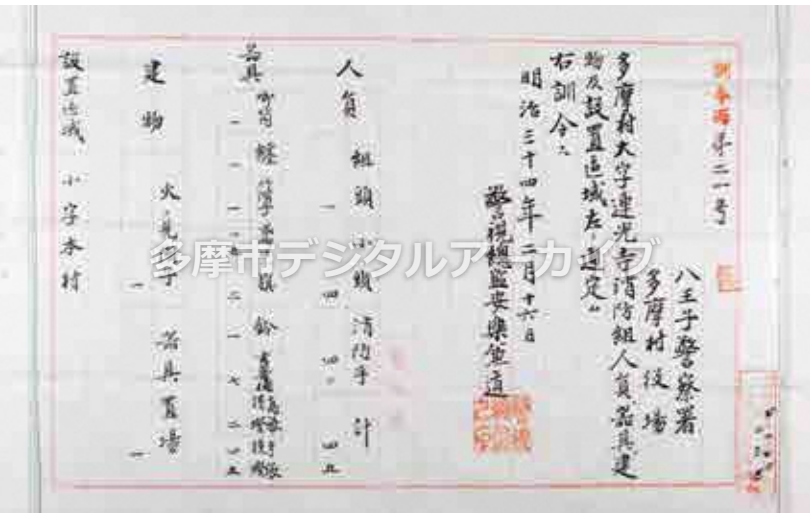
関戸橋　1939（昭和14）年
架橋した時は街路灯があったが、戦時中の供出で撤去された。

多摩市デジタルアーカイブ

村の防災

多摩村となる前の明治初年頃に、各村に消防組［れ組（連光寺組）、せ組（関戸組）、か組（貝取組）、こ組（乞田組）、を組（落合組）、わ組（和田組）、て組（寺方組）、い組（一ノ宮組）等］が組織されました。

1898（明治31）年6月、多摩村議会において消防組を組織することが議決され、1901（明治34）年2月、連光寺本村地区に連光寺消防組が設置されました。これが多摩村公設組織の始まりであり、以後各地区に設置されていきました。



多摩村連光寺消防組設置二付訓令　1901（明治34）年2月
警視総監から出されたもので、連光寺の消防組（第一部）の設置にあたっての人数や器具などを定めたもの。当初は、組頭1名、小頭4名、消防手40名の計45名で発足。喞筒1、纏1、竹梯子1、鳶口15、旗2、鈴1、玄蕃桶7、高張提灯2、弓張提灯45が用意され、火の見階子、器具置き場が設置された。

消防頭巾　明治時代
関戸の「せ組」のものと考えられる。

竜吐水　1893（明治26）年
落合の青木葉組「あ組」のもの。

多摩市デジタルアーカイブ

この頃の消火用器具は、竜吐水を手引きに改造したものでした。

1910（明治43）年10月、各地区の消防組を統一して多摩村消防組が設置され、組頭以下8部402名の消防手により組織されました。

1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災では、多摩村も全壊27、半壊56との被害報告が記録に残されています。（多摩市消防団、多摩市総務部防災安全課）

関東大震災時の多摩村の被害

腕用ポンプ　大正時代か
消防組第八部のもの。腕用ポンプが部隊全体に行き渡ったのは大正時代になってから。かなり重量があるため、消防組の定員が増やされたといわれている。

多摩市デジタルアーカイブ

戦争と多摩

日中戦争の進行とともに1937（昭和12）年以降、都心部にあった陸軍施設や軍需工場の郊外移転が進み、三多摩や相模原には多数の軍事施設が建設されました。1938（昭和13）年には、多摩・稲城両村にまたがり、有煙火薬などを製造する陸軍造兵廠火工廠板橋製造所多摩分工場（翌年から多摩火薬製造所）が設置されました。工員として地方から移り住んだ人も多くいましたが、戦況が悪化していくと、立川高等女学校（現立川女子高等学校）の生徒も勤労動員されました。

また1938（昭和13）年には、相模原に陸軍造兵廠東京工廠相模兵器製造所（1940（昭和15）年から

多摩火薬製造所の外観
1935～44年（昭和10年代）
地元では「火工廠」と呼んだ施設で、1937（昭和12）年5月に建設が決定し、翌年11月から操業、その後、拡張が進んだ。

陸軍用地碑　2021（令和3）年6月撮影
多摩火薬製造所建設の際に、用地の境界に埋め込まれたもので、稲城市の城山公園内に現存する。

畠（はたけ）から見た鶴見・川崎市の様子
1945（昭和20）年8月2日
多摩火薬製造所に勤労動員された、立川高等女学校生徒の北島みさを氏が描いた絵である。

相模陸軍造兵廠）が建設され、戦車や砲弾の製造が始まりました。そこで製造された戦車の性能テストが、多摩丘陵でおこなわれることとなり、1943（昭和18）年に設けられたのが「戦車道路」でした。

さらに、1944（昭和19）年からは本格的な疎開が始まり、同年8月からの約1年間、多摩村と稲城村には、山中国民学校（現品川区立山中小学校）から、子どもたちが集団疎開しました。（浜田弘明）

旧戦車道路建設予定地略図
多摩村は一部で、柚木・堺・忠生・鶴川の各村にまたがっていることが分かる。

和田の高蔵院に疎開してきた子どもたち
1944～1945（昭和19～20）年
高蔵院では、山中国民学校5年生の女子21人が暮らした。

戦車道路の跡地　2009（平成21）年4月
1984（昭和59）年以降、戦車道路の跡は、尾根緑道として整備され、桜の名所となっている。写真は、町田市常盤町付近。

無題（荷車を引く子どもたち）　1944～45（昭和19～20）年
小学6年生だった児童が描いた作品で、米俵と思われるものを運搬している。

多摩町町制施行

1953（昭和28）年、町村合併促進法が制定されました。この法は町村の財政基盤を強化するため、人口8,000人以下の町村を合併により解消しようとするものでした。翌年、東京都より由木村との合併が提案されます。両村は一層規模の大きい合併を希望して、この提案に反対しました。

1956（昭和31）年に新市町村建設促進法が公布されると、東京都は引き続き由木村との合併を促します。両村は再度反対して、多摩村・由木村・日野町・稲城町の4か町村合併を目指します。しかし、

由木村、多摩村の皆様にお知らせ

○町村合併勧告はなぜ出たか

去る三月二十日、由木村と多摩村とに対し、町村合併を行うよう都知事から勧告がでました。これは両村が人口、面積とも国や都の手引よりはるかに低く、経済的にも豊かとはいえないので、このまま別々になっているよりも、合かん統廃関係も深く色々と事情の似かよっている両村が合併した方がよいと認められることが第一の理由です。

また、住民の福祉厚生のため各種施設の整備充実をはかり、そしてこれから益々増えてゆく復帰で多方面にわたる町村の事務事業を遂行するに当たり、住民各人のサービスの向上を図るためには、町村合併により財政を経費をはぶき、少しでも力の強い大きな町村になった方がよいと考えられることが第二つの主な理由です。

このような勧告から法律上の手続としては、新市町村建設促進法の規定により、東京都新市町村建設促進審議会の意見をきき、内閣総理大臣に勧告案としてひすすめたものであります。

○両村が合併すればどのように力が大きくなるか

町村の人口は、その町村の力をあわす一つの尺度ですが、昭和二十年十月一日に行われた国勢調査によると、由木村の人口は六、一二八人、多摩村は七、七一二人で、町村の平均人口は一万、五七三人です）は都部町村で十一のうちから第十位という位にあり、面積もまた平均を下廻っています。これが合併すれば人口は一万二千人となるのです。

大に役場がいろいろの仕事をするに必要な財源ですが、これが大きくなれば大なる財政がしやすくなるのは言うまでもありません。今のままでは住民のために何かをまとまった仕事をしようと考えても伸々思うようには参らないが実情です。これが合併すれば、その大きくなった財源で重点的積集的に道路や、公民館、診療所や授産施設、あるいは土地改良事業等の仕事ができるようになります。

さらに財政が一つになれば議決機関や執行機関が一つとなり、各方面に対して行っていた仕事を一緒にできるようになるので、いわゆる事務能率が上がり、節約が出来ます。それをそのまま教育に事業に投入することができます。今、隣接方の村や町のうちでは都部町村中由木村は最下位のほう二十一位多摩村は第二十六位にあります。合併すれば大体中位くらいになります。

○合併して不便にはならないか

合併すれば面積も大きくなり役場も一つになり不便になるのではないかという声をきくことがありますが、日常生活で密接に結びついている所々部落、調査部等の事務はそのままとなり、出張所で処理されれば、殆ど支障はないとのことです。

○町村合併はどのせ進んでいるか

町村合併促進法が施行された当時、全国には三、〇〇〇の町村がありました。町村合併が進んだ結果、今年の四月一日の町村は、一、一〇〇になり、二千四百の町村が減少しました。これは国の合併計画に対しては、九〇％の町村が賛成となります。東京都においても既に合併によって減少した町村数は四〇に及び、今年度中に町村合併をするように勧告した町村が一〇。其の中、日野町と七生村は合併の申請書を既に都に提出し、また稲城町、和田村、南村の四町村も市をつくる請願をしましたから、これらを入れれば残る町村は四ということになります。

○合併したらどんな特典があるか

新市町村建設促進法は合併した町村に対しては都から自治と財政上の強力援助をするように、また国鉄、電々公社等、公共企業体も協力するようにすすめています。実際に各種の補助金、あるいは起債等は優先的につけられ、また新市町村の一体性を確保する意味で住民に直結した施設に期待に最も効果的な補助金を出しています。今年度は国から新市町村に千五百九十二万円の補助金が、また都はとりあえず、当初予算に千五百三十七万円の補助金を計上して新市町村の援助にあてることになっています。

昭和三十二年四月

東京都南多摩地方事務所

多摩市デジタルアーカイブ

多摩・由木両村に合併を勧める南多摩地方事務所のお知らせ　1957（昭和32）年
新市町村建設促進法に基づく東京都の提案を住民に伝えるもの。

町制を祝う役場前の職員たち　1964（昭和39）年
「祝町制多摩町」と記された看板は、町内各所に設置された。

仮装して町制を祝う住民たち　1964（昭和39）年
住民たちはそれぞれの衣装を着て、記念パレードに参加した。

4か町村の合併はなかなか足並みがそろわず、1963（昭和38）年に日野町が単独で市制を施行しました。由木村では合併をめぐり八王子市か日野市かで意見が拮抗して、住民投票の結果、八王子市との合併を決定します。

1962（昭和37）年5月に住民登録人口が10,000人を超えた多摩村は、単独での町制を準備して、1964（昭和39）年4月1日に施行しました。1889（明治22）年に誕生した多摩村は、75年目に多摩町になりました。（保坂一房）

多摩市デジタルアーカイブ

トラックに分乗して町内をまわる住民たち
1964（昭和39）年
多くの人たちが荷台に乗り込んで、横断幕を掲げている。

多摩市デジタルアーカイブ

町制施行を祝う聖蹟桜ヶ丘駅
1964（昭和39）年
町制祝賀の看板が設置された高架駅になる前の聖蹟桜ヶ丘駅。

◎町章図案入選作品きまる！

九月一日付の本紙で募集しました「町章図案」は、五十七点の力作、傑作が中学生或いは主婦の方々をはじめ二千九名の方々から寄せられました。

十一月五日九名の審査員（一行にともなって町章作成について、入選された方々はもとより銭金乍ら入選を逸した方々に対してもその作品に表われた郷土多摩町に対する強い愛情に、審査員をはじめ関係者一同賛辞しきりでした。

本来ですと、個々にお礼申しべるべきですが、紙上をかりて厚くお礼申し上げ、今後も、町のこと全般についてご支援をいただけますようお願いします。

遍光寺　二五九
平沢正宏様
貝取　五四九
金子忠義様

以上のように決定しました

多摩史上画期的な、町政施行にともなって町章作成について、入選された方々はもとより銭金乍ら入選を逸した方々に対してもその作品に表われた郷土多摩町に対する強い愛情に、審査員をはじめ関係者一同賛辞しきりでした。

入選図案（原寸大）

近藤都起雄作

多摩市デジタルアーカイブ

町章図案の決定　1964（昭和39）年
公募により、現在の市章に至る町章の図案が決定した。

多摩の学校の歴史と変化

明治維新後、多摩市域の最初の公教育機関は、1872（明治5）年に連光寺村に設立された玉川向岡（むかいのおか）郷学校です。その後学制発布直後、陶民学舎・処仁学舎が設置され、市域の公教育を担う体制が作られます。さらに1875（明治8）年、これが向岡学校・陶民（とうみん）学校・処仁（しょじん）学校に発展していきます。

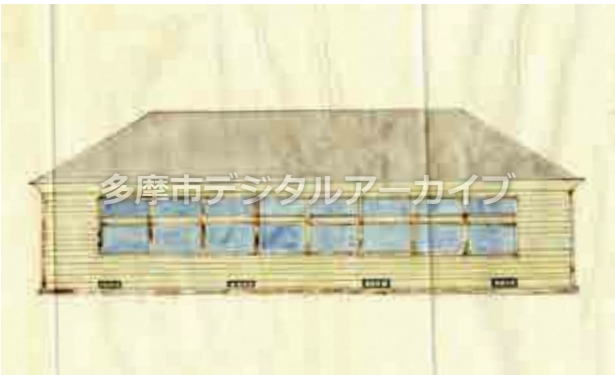
これらが1892（明治25）年に向岡・処仁・兆民（ちょうみん）に整備されて、多摩村尋常小の3小体制が確立され、さらに1901（明治34）年には、3校が尋常高等小学校に昇格します。

郷学校日課　明治時代
教師村岡笠城によって書かれた郷学校の日課。テキストは『日本外史』『国史略』などを使い、素読（声に出して読む）と講釈（解説）を繰り返して勉強したことが分かる。

「玉川向岡郷学校」印
明治時代

向岡学校校札　1884（明治17）年

（裏面）
紀元二千五百四十四年
明治十七年三月　日
額第神奈川県校外
主任学務委員
寄附人　富沢政賢
彫刻人　中邨幾蔵



向岡尋常小学校増築図面　1899（明治32）年

1912（明治45）年には、3校体制を統一して、多摩村立尋常高等小学校が開校し、同時に第1分教場、第2分教場が設置されます。

一方、太平洋戦争後の教育改革の中で、多摩中学校が1947（昭和22）年に設立されます。

長年にわたり維持されてきた小学校の1校2分教場は、多摩町が誕生する1964（昭和39）年前後、分教場を独立させ、多摩第一小・多摩第二小・多摩第三小が誕生します。

多摩ニュータウンが開発されると、1971（昭和46）年から1989（平成元）年の約20年間に、22の小学校と11の中学校が新設されました。その後、学齢期人口の減少に伴い、3度の改革で整理統合され、2021（令和3）年現在、既設校も含め小学校17、中学校9が設置されています。（寺沢史）

多摩市デジタルアーカイブ

多摩尋常高等小学校（本校）
1937（昭和12）年頃
本校は1932（昭和7）年から1933（昭和8）年にかけて増築工事がおこなわれた。増築した2階建ての木造校舎には6つの教室と保健室がつくられた。本校は現在の市役所の位置にあった。

多摩市デジタルアーカイブ

第一分教場　1935（昭和10）年頃
第一分教場（現多摩第三小学校）は、1933（昭和8）年7月に増改築工事が終わった。

多摩市デジタルアーカイブ

第二分教場　1932（昭和7）年春
現多摩第二小学校。1933（昭和8）年2月から増改築工事がおこなわれた。写真は旧校舎。

多摩市デジタルアーカイブ

第二分教場と周辺の絵

聖蹟桜ヶ丘駅周辺の変化

太平洋戦争が始まった頃生まれた私が小学生になった時に、友達との良き遊び場だったのが駅前広場だった。戦争ごっこ、チャンバラごっこ、缶蹴りなどが主な遊びだった。当時のホームは今よりも湾曲が大きく、電車とホームの間に子どもが落ちたくらいだった。上りホームに行くのに遮断機があったが、そんな駅が大きく変化したのは、ニュータウン開発前から当時市内で唯一つの駅であった聖蹟桜ヶ丘駅が、乗客増加を見込んでの高架化と主に水田が広がっていた北側の開発だった。

市内最初の大型スーパー「西友」や「京王ストア」が相次いで開店した

多摩市デジタルアーカイブ

聖蹟桜ヶ丘駅前の様子　昭和40年代か

多摩市デジタルアーカイブ

聖蹟桜ヶ丘駅構内の様子　1969（昭和44）年

多摩市デジタルアーカイブ

聖蹟桜ヶ丘駅の高架工事　1969（昭和44）年

1970（昭和45）年頃の駅北地区は、更地が多く広場として活用され、商工まつり、サーカスや京王沿線で一番と言われた盆踊りなどが開催された。

やがて駅前大型マンション「ザ・スクエア」が注目を集め、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターなどが続々建設されたが、一方で周辺商店街の経営圧迫が問題になり、当時調整機関として「商調協」が存在したが大手にはかなわなかった。個人商店の廃業が顕著になりつつある今、インターネットの普及で掌に乗るスマホなどが生活をさらに大きく変えている。

（森田利夫）

京王ストア
1972（昭和47）年頃

高架化からまもない聖蹟桜ヶ丘駅周辺　1970（昭和45）年8月

《トピックス》

多摩中学校の郷土教育

現在は多摩市の指定文化財となっている稲荷塚古墳の発掘には、多摩中学校の生徒たちも参加していたことをご存知でしょうか。

1952（昭和27）年頃、当時多摩村唯一の中学校だった多摩中学校に郷土研究部がつくられました。東京国立博物館の先生と下村静治先生の指導のもと、部員たちは稲荷塚古墳や庚申塚古墳の発掘などに関わりました。稲荷塚古墳の発掘では、大学生と一緒に、近くの住人から鍬やシャベルを借りながら発掘にあたりました。庚申塚古墳の発掘では、刀や耳飾りが出土しました。その後も村のなかの様々な場所で、下村先生は当時の村の古老たちと話をして、調査に歩き、生徒たちも調査に参加しました。

下村先生はのちに多摩村音頭の作詞を手掛けます。音楽の渡邊先生がこの詩に曲をつけ、卒業生たちが歌い、レコードになりました。地域によってはこの曲を流して盆踊りを踊ったそうです。（濱田正喜）

下村静治先生　昭和20年代後半か
写真左の人物が下村先生。授業を一時間つぶして『南総里見八犬伝』を読み、楽しみにしていた生徒もいた。

多摩中学校郷土研究部の様子　昭和20年代後半か
古墳の模型や出土物などの報告が壁面に掛けられる。

多摩中学校郷土研究部が作成した古墳の絵

多摩村音頭レコード

《トピックス》
村医者・産婆

多摩村では、明治から大正にかけて、最新の西洋医学を学んだ沼野元章・杉田武義・小原弘二郎・林平一・関君平の５人の医師が、開業しています。まだ、無医村が珍しくなかった時代、彼らが多摩村の医療を支えてきました。なかでも、北里柴三郎に学んだ地元出身の杉田武義は、学校衛生の分野で活躍するかたわら、人力車で広い地域を往診し、多摩村国民健康保険直営診療所の開設を後押しするなど、地域医療の向上に尽力しています。

一方、産科が身近でなかった時代、産婆（助産師）は、村人の出産を見守ってきました。多摩村では、市川みよが戦前から、小林タケと辻野政子が戦後、命がけのお産に立ち会い、多くの新しい生命を取り上げました。（沖川伸夫）

沼野元章肖像
沼野元章は最も早く、1893（明治26）年に東寺方で開業した。

杉田武義を囲んで（写真中央）
1940（昭和15）年
杉田武義は、学童の栄養改善や学校看護婦の整備にも取り組んだ。

多摩医院と林平一
1955（昭和30）年
沼野医院を引き継いだ林平一は、「多摩医院」と改称し、開業した。

市川みよ（写真右側）
仕事着姿の市川みよ。この動きやすいスタイルで活動していた。

里山のくらし

「里山」はもともと「人家に近い山」を指す言葉でしたが、農家や村の人々が周りの山野を活用する暮らしの中で長い年月をかけて生み出された景観のことを指して使われます。山野の活用は、人々が生きるために必要なことでした。では、多摩ではどのようにこれらの山野を活用していたのでしょうか。

多摩ニュータウン開発前、多摩には多くの里山がありました。多摩の農家は、農閑期である冬から春先にかけて山に入り、樹木の成長のために状態の良い枝だけを残して枝を切る「モヤカキ」や、雑木林の下草を刈る「下草刈り」、刈った下草や落ち葉を集める「クズハキ」をおこないました。こうした人々の営みにより、山の環境は保たれました。

山の薪切り　1981（昭和56）年
運搬のことを考えて、山の中で木を薪にしてから持ち帰った。

縁の下の薪　1965（昭和40）年頃
家に持ち帰った薪は、縁側の下や軒下などの雨にぬれにくい場所に保管した。

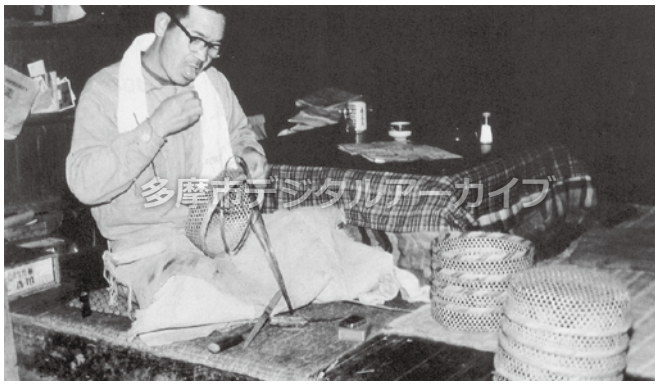
炭焼き窯　1970（昭和45）年
炭焼き窯は、砂土のある場所、近くに水のある場所、炭の運搬に便利な場所に築かれた。

山の植物は人々の暮らしを支える資源にもなりました。集められた下草や落ち葉は堆肥として、田畑の肥料となりました。山の木は、家屋の建築用材に用いられた他、炭焼きをへて炭となり、家庭のカマド（竈）やヒジロ（囲炉裏）、蚕室の暖房や乾燥、製茶の燃料などに使用されました。多摩で生産された黒炭は、周辺地域にも出荷されました。山から切り出した枝は、縁の下に保管され、薪として用いられました。共有の茅場に自生する茅は、乾燥させて屋根の葺き替えに使われました。

また、山に自生するシノダケを用いて、六つ目の籠である目籠（メカイ・メケエ）が編まれました。メカイは仲買人を通じて都市部で販売され、農閑期の貴重な現金収入となりました。

このように、かつての多摩市では、山林資源を活用するくらしが営まれていたのです。（事務局）

クズハキ　1984（昭和59）年3月



メカイづくり　1964（昭和39）年3月

葺き替えをおこなう屋根職人　1965（昭和40）年頃

商店と近代の生業

多摩村の畑地では、明治時代から昭和前期にかけて、養蚕が広くおこなわれていました。特に、大正末からは盛んにおこなわれ、落合地区や乞田地区には蚕種を販売する種屋が、和田地区には蚕に繭を作らせる（上蔟（じょうぞく）させる）ためのマブシを販売する蔟屋（まぶしや）がありました。東寺方地区では、雑貨商を営んでいた森沢商店の前で、桑葉を売買する「桑市」が開かれていました。

また、昭和初期まで市内には８つの水車小屋があったといわれ、関戸地区には、ニュータウン開発直前まで、水車を利用した精米・精麦・製粉を業とする精穀所がありました。

鎌倉街道沿いの商店　1956（昭和31）年
商品運搬のためのオートバイと自転車がある。ソース、塩などの食品の看板も見える。

水車と水車小屋　1960年代（昭和35～44年）
電力が普及するまで、水車は農村の動力源として、精米・精麦・粉挽などに利用された。

養蚕農家での給桑の様子　1968（昭和43）年
養蚕農家では、蚕を棚で飼育し、桑畑から摘んできた桑葉を与えた。

多摩ニュータウンの造成工事が始まると、これまでにはなかった新たな商売を始める人もいました。1964（昭和39）年3月に現在の京王線聖蹟桜ヶ丘駅近くに銭湯「立花浴泉」が創業し、ニュータウン建設などに携わる工事関係者でにぎわったといいます。早めの時間帯は年配の方や子連れ、夕方以降はサラリーマンに多く利用されたとのことです。多摩市で唯一の銭湯は、2014（平成26）年3月末で50年の歴史に幕を閉じました。（浜田弘明）

多摩市デジタルアーカイブ

立花浴泉の浴室内　2013（平成25）年3月
営業時の浴泉内部。奥の壁には富士山が描かれ、手前の洗い場にはタイル壁画が見える。

多摩市デジタルアーカイブ

立花浴泉の外観　2014（平成26）年3月
閉店直前の立花浴泉の外観。サウナとコインランドリーが併設されていた。右手に煙突が見える。

多摩市デジタルアーカイブ

立花浴泉の煙突
2014（平成26）年3月
当初は薪を使用していたが、その後、重油を燃料とした。煙突には、「サウナ立花浴泉」の文字が見える。

町と村の芸能

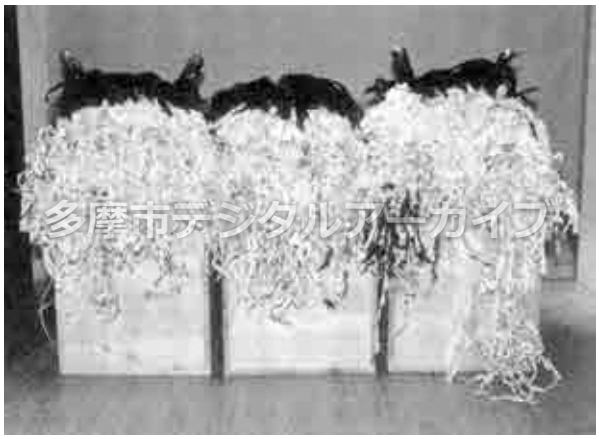
落合には一人立三匹獅子舞がありました。男獅子２匹、女獅子１匹が歌と笛に合わせて舞い、幣負（へいお）いがユーモラスな動きで笑いを誘います。祭礼での楽しみの一つでしたが、1940（昭和15）年を最後に奉納は途絶えました。落合白山神社では、獅子頭や用具類、衣装を保管しており、多摩市有形民俗文化財に指定されています。獅子頭は枝状の突起を持つなど古い形式を示し、江戸後期のものと推定されます。衣装はウチオリと呼ばれる自家用の織物で作られており、昭和初期の衣生活の資料としても貴重なものです。

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市デジタルアーカイブ

獅子頭二組
左より男獅子、女獅子、剣獅子。頭部の飾りは鶏の羽根と反故を再利用したシメ紙縒（こより）（左下写真参照）。

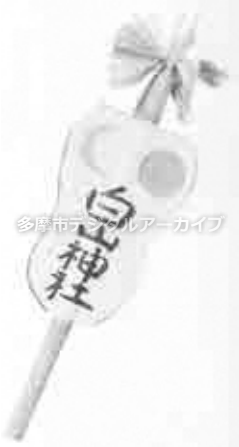
多摩市デジタルアーカイブ


多摩市デジタルアーカイブ

多摩市デジタルアーカイブ

男獅子と幣負い　1983（昭和58）年
落合白山神社遷宮祭に衣装を着て参列。幣負いはその名の通り、幣束を背負う。

落合では、粉屋踊りも盛んでした。粉屋踊りは、万作踊りとも呼ばれています。段物と手踊りがあり、すり鉦（がね）や三味線の伴奏がつきました。芸達者な青年たちが「忠臣蔵三段目」などを上演し、喝采を浴びたものでしたが、段物は1946（昭和21）年の上演が最後となりました。三匹獅子舞も粉屋踊りも、関東地方に広く分布し、地域の青年たちが担い手となって伝えてきた民俗芸能でした。（山崎祐子）



幣負いの面と採り物
翁面に軍配で舞台を清め、ひょっとこに陰陽の採り物で獅子舞の進行をした。

獅子舞の衣装
タッツケバカマと手甲はウチオリ（自家用の織物）の厚手の木綿布。

粉屋踊りの三番叟
1996（平成8）年
編纂のために再現した時の写真。最後の伝承者小泉勝一氏。

粉屋踊りの伊勢音頭　1942（昭和17）年
手踊りで人気のあった伊勢音頭。踊り手四人のうち、立っている二人は男性。

信仰

市内には、古くから地域ごとに神社や寺院があって、人々の信仰を集めています。寺院は、現在15か寺（うち4か寺は戦後）ありますが、在来の住民は、檀家として先祖をまつり、葬祭を執(と)り行(おこな)ってきました。神社も地区ごとにあって、ニュータウン開発以前は地区住民のほとんどが氏子になっていました。

その他にも、地域ごとに様々な講がおこなわれたり、石仏が信仰されています。市内で広くおこなわ

多摩市デジタルアーカイブ

吉祥院の外観　平成前期
吉祥院は、乞田地区にある真言宗智山派の寺で、戦時中は学童疎開の受け入れをしていた。

多摩市デジタルアーカイブ

吉祥院の花祭り　平成前期
花祭りは、釈迦の誕生日とされる4月8日におこなわれる行事で、参詣者は釈迦の誕生仏に甘茶をかけ、一口飲むと病気に効くとされる。

多摩市デジタルアーカイブ

諏訪神社の外観　年代不詳
諏訪神社は、馬引沢地区の氏神で、建御名方命（たけみなかたのみこと）などを祭神とする。かつての社殿は、茅葺きであった。

れてきた講の一つに、「念仏講」があります。これは、女性が中心となって「南無阿弥陀仏」などの念仏や和讃を唱える行事で、各所でおこなわれてきました。また「庚申講」も江戸時代から広くおこなわれていて、記念に造塔された庚申塔は市内に38基確認されています。

その他、不動明王をまつる不動講、関戸にある観音寺の観音講などがあります。また、武州御嶽・大山・榛名・秋葉・伊勢・富士・三峰など、様々な聖地や社寺へ代理人に参詣させる「代参講」も市内各所でおこなわれてきました。（浜田弘明）

多摩市デジタルアーカイブ

諏訪神社の祭礼　平成前期
本来の祭礼日は、8月27日であるが、平成期からは、この日に近い日曜日が祭

多摩市デジタルアーカイブ

東寺方の念仏講　1976（昭和51）年9月下旬
念仏講は、市内全域で確認され、女性が主体となっておこなう講である。東寺方地区には、かつて4つの講中があつた。

多摩市デジタルアーカイブ

多摩市デジタルアーカイブ

馬引沢の御嶽講　平成前期
「武州御嶽講」は、東京都青梅市の御嶽神社を本社とし、盗難除けの神として知られ、講の代表者が代参の形で参詣する。

多摩市
デジタルアーカイブ

富士講碑　2009（平成21）年
貝取地区にあるもので、1880（明治13）年の銘があるが、現在では講の伝承が聞かれない碑である。

《トピックス》
宅地開発の前哨

府中カントリークラブは、銀座にあった東京スポーツマンクラブが設立した会員制のゴルフクラブです。多摩村と由木村の山林などを買収して、1959（昭和34）年にオープンしました。多摩ニュータウン計画区域に含まれて存続が危ぶまれましたが、緑地を確保して周辺の環境保全に寄与しています。

1962（昭和37）年には、聖蹟桜ヶ丘駅南側の丘陵地約76haに京王帝都電鉄による桜ヶ丘住宅地の分譲が始まります。目的別道路・上下水道・ガス・緑地・電話・ショッピングストアなどを備えた分譲地で、1971（昭和46）年までに全1,300区画を販売しました。この宅地開発に伴い、聖蹟桜ヶ丘駅前のショッピングセンターなど、商業施設の集積も進みました。（保坂一房）

府中カントリークラブ　1972（昭和47）年
2代目理事長は、創業者岩田彦二郎の実兄豊雄（作家獅子文六）。

造成中のコース　1959（昭和34）年
3番ホール（Par4）の高麗芝張りの風景。

桜ヶ丘住宅地の分譲地　1965（昭和40）年
建物がまだまばらな桜ヶ丘2丁目の分譲地。奥に愛宕の山が見える。